

# 岡山県医師会消化管検診研究会講演会

日時:令和2年2月22日(土)14:00~17:00

場所:岡山県医師会館 三木記念ホール

開会挨拶 岡山県医師会 副会長 大原 利憲

**講演Ⅰ** 14:00~15:30(質疑応答を含む)

**演題**「大腸がん予防のカギは検診の普及にある」

**講師**:岡山大学病院 消化器内科 助教 原田 馨太 先生

現在、我が国の臓器別がん罹患数の第一位は大腸です。がん死亡率においても肺に次いで2番目に高く、特に女性は15年以上にわたり、がん死のトップを占めています。一方で、大腸がんは早期に発見し適切な治療を受けさえすれば、高い確率で「治る」がんでもあります。大腸がんから命を救うカギは早期発見にあり、早期発見のカギは検診に他なりません。大腸がん検診は苦痛を伴うこともない「検便」が入口です。しかし、大腸がん検診対象者の受検率が何割くらいかご存じでしょうか。半分以下です。しかも一次検診で引っかかっても、二次精検に行く人はその半数だと言われています。大腸がんを早期に発見し落とさずに済む命を救えば、患者さんから感謝の言葉を頂くことも少なくありません。一人でも多くの患者さんに検診を受けて頂く啓蒙活動を行うことも、我々医師の重要な責務の一つです。

**講演Ⅱ** 15:30~17:00(質疑応答を含む)

**演題**「早期胃癌診断に対する拡大内視鏡の臨床応用」

**講師**:福岡大学筑紫病院内視鏡部 教授 八尾 建史 先生

早期胃癌に対する拡大内視鏡の診断体系と臨床的有用性について最新の知見を紹介する。従来の内視鏡では診断不可能であった微小胃癌や0-IIbに対し、拡大内視鏡の診断体系 VS classification system を用いれば正確に診断できるようになった。さらにEBMに基づいた診断アルゴリズムであるMESDA-Gも確立された。臨床的有用性も高いエビデンスを持って検証された。また、拡大内視鏡による胃癌診断の限界(ピットフォール)も明らかになった。本講演では、最新の知見に基づき、臨床応用と限界例に対する臨床的対応について呈示する。

※日医生涯教育講座単位：3単位

講演Ⅰ 11 予防と保健 0.5単位 50 吐血・下血 0.5単位 54 便通異常(下痢・便秘)

講演Ⅱ 11 予防と保健 0.5単位 51 嘔気・嘔吐 0.5単位 52 胸やけ

生涯教育チケット帳を持参お願いいたします。

また、日本内科学会認定総合内科専門医更新の2単位(予定)が認定されます。

※本講演会は、「岡山県消化管精密検診施設」更新に関わる講演会(年1回出席)に認定されていますので消化管精密検診委嘱施設の方は聴講をお願いします。

会員施設のコ・メディカルの方も奮ってご参加下さい。講演Ⅰ、講演Ⅱとも講話後、質疑応答を受けます。

※託児希望の方は岡山県医師会HPより生涯教育⇒託児申込書をダウンロードをして2月14日(金)までFAXでお申込をお願いします。FAX 086-251-6622

災害、天候不順の場合、中止することがあります。その場合はHPにてお知らせいたします。